

■ 連結貸借対照表

科目	期別	当期	前期
		平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産		14,867	15,363
固定資産		5,959	5,316
有形固定資産		4,350	4,253
無形固定資産		56	49
投資その他の資産		1,552	1,013
<b>資産合計</b>		<b>20,826</b>	<b>20,680</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債		594	733
固定負債		655	627
<b>負債合計</b>		<b>1,249</b>	<b>1,361</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本		19,731	19,857
その他の包括利益累計額		△169	△544
新株予約権		14	6
<b>純資産合計</b>		<b>19,576</b>	<b>19,319</b>
<b>負債純資産合計</b>		<b>20,826</b>	<b>20,680</b>

■ 連結損益計算書

科目	期別	当期	前期
		平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
売上高		4,986	4,781
売上総利益		1,655	1,601
販売費及び一般管理費		1,845	1,597
営業損益		△190	3
経常損益		△30	45
税金等調整前当期純損益		△36	99
当期純損益		△126	33

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	当期	前期
		平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		285	△109
投資活動によるキャッシュ・フロー		366	△38
財務活動によるキャッシュ・フロー		△0	△0
現金及び現金同等物の期末残高		2,199	1,459

決算のポイント / 株主還元

業績について

当期の連結売上高は、中国や米国の子会社が売上高を伸ばし、4,986百万円（前期比4.3%増）となりました。営業損益は、採算の良い製品の販売が低調に推移したほか、中国子会社の人件費上昇、販売促進活動費用の増加等に伴い、190百万円の営業損失となりました。

次期の見通し

本年5月に子会社化した不二電子工業(株)の業績を加え、平成26年3月期の連結売上高は10,000百万円と、前期比で倍増の計画です。損益面では、営業利益で250百万円、経常利益で330百万円、当期純利益で50百万円を見込んでいます。

配当について

当期におきましては、利益を計上することはできませんでしたが、当社の利益還元に対する基本方針並びに今後の事業展開等を勘案し、1株当たり5円の期末配当を行うことといたします。なお、平成26年3月期の期末配当につきましては、1株当たり5円を予定しております。

1株当たり 配当金(円)	平成25年3月期	平成26年3月期 (予想)
	5円(復配)	5円

■ 株式の状況

発行済株式総数	9,333,654株
株主数	3,665名

■ 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 基準日 毎年3月31日  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 郵便物送付先 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 ☎0120-782-031  
 (電話照会先) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の  
 本店および全国各支店で行っております。

株式会社精工技研 広報課

〒270-2214 千葉県松戸市松飛台296番地の1

TEL 047-388-6401(直通) FAX 047-388-4477

E-mail ir@seikoh-giken.co.jp WEB http://www.seikoh-giken.co.jp

株主通信

第41期 事業報告

平成24年4月1日～平成25年3月31日

ごあいさつ

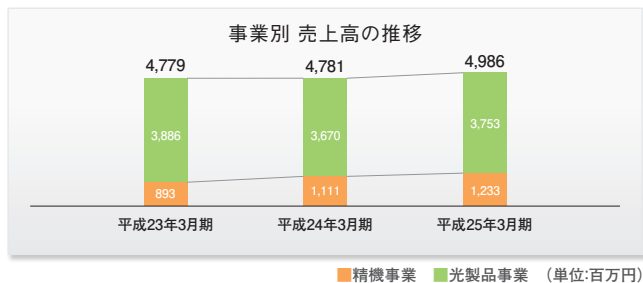
平素より当社に対しまして格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。当社グループでは、平成22年4月からスタートさせた長期経営

計画『マスタープラン2010』の遂行に取り組んでおります。計画3年目となる当期は、恒常的に利益を創出できる企業体質の確立を目指し、販売力と価格競争力の強化、新事業・新製品創出のための施策を展開いたしました。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



代表取締役社長

上野 昌利



## 精機事業 超精密金型 / 精密加工 / レンズ

業界最高水準の金型技術と精密加工技術で、お客様の製品開発と生産性向上を支援します。



微細な溝を施した成形品



スマートフォン用レンズ

精機関連においては、光ディスク成形用金型に依存した事業体質から脱却することをテーマに、今後の事業収益の柱となる新しいビジネスの立ち上げに取り組んでいます。当期は、光ディスク成形用金型の製造開発を通して培った技術に応用した精密金型を用いて、成形品を量産するビジネスの具体化に取り組みました。また、耐熱レンズ関連では、スマートフォンや携帯電話に搭載するカメラレンズの販売が伸びました。これらの結果、当期の精機関連の売上高は1,233百万円となりました。

## 光製品事業 接続部品 / 光部品 / 製造機器

光通信ネットワークの高速・大容量化を支える高精度な技術・製品を提供します。



MPOコネクタ



MT研磨機

日本本社で製造していた一部の製品を杭州精工技研有限公司へと移管したほか、中国現地での部材の調達も進め、製造原価の低減に取り組みました。また、昨年8月には、光通信用部品の形状測定・検査装置で世界トップクラスのシェアを誇るフランスのメーカー「DATA-PIXEL SAS」社の株式の49%を取得しました。今後は、製品開発面や製造面でもお互いの経営資源を有効に活用しながら事業を拡大し、市場における存在感を高めていきたいと考えております。これらの結果、当期の光製品関連の売上高は3,753百万円となりました。

# 長期経営計画「マスタープラン2010」の達成に向けて ~成形ビジネスの強化~

2010年度からスタートした長期経営計画「マスタープラン2010」に基づき、積極的な事業拡大施策に取り組んでいます。

当社技術を活かした成形ビジネスを一層強化し、「医療」「自動車」という成長・進化する業界への展開を図ります。

### Topic1

## コンタクトレンズ事業への進出

本年1月、台湾有数の企業グループ「能率集団」と共同で、台湾のコンタクトレンズメーカー「精能光學股份有限公司」に出資し、関連会社化しました。

世界のコンタクトレンズ市場は、中国をはじめ、アジアの新興国や東欧諸国を中心に年々拡大しています。ディスポーザブル（使い捨て）レンズの普及に加え、カラーコンタクトレンズや遠近両用のバイフォーカルレンズ、黒目を大きく見せるサークルレンズ等、用途に応じて製品の種類も増加しており、将来にわたって市場は拡大が続くと見られています。

精能光學は、ディスポーザブルコンタクトレンズの高い製造技術を有しており、台湾を中心に「iLens」というコンタクトレンズブランドを展開しています。また今回共同出資した能率集団はデジタルカメラの生産量で世界トップシェアを誇り、中国をはじめアジアに広いネットワークを築いています。“製造”“販売”に強い台湾企業と、精密な金型と高い品質・技術を有する日本の精工技研が協力する、業界初となる日台連携ビジネスモデルで、成長するアジアのコンタクトレンズ市場でシェアの拡大を狙います。



### 精能光學股份有限公司



平成19年創業のコンタクトレンズメーカー。台湾における医療器材優良製造証明（GMP：Good Manufacturing Practice）のほか、欧州のCEマーク、ISO13485を取得しています。

### Topic2

## “成形”に関する技術の拡大

本年5月、静岡県に本社を構える「不二電子工業株式会社」の株式を取得し、連結子会社化しました。

不二電子工業は、インサート成形やプレス成形等の優れた成形技術をベースに独自の精密成形品を開発し、自動車業界や携帯電話業界等に安定した顧客基盤を築いています。当社グループは、精密金型事業の将来像として、金型供給ビジネスから成形品供給ビジネスへの展開を描いており、不二電子工業を迎えたことで、その実現を加速させる計画です。さらに、当社グループが国内外に築いてきたネットワーク、不二電子工業が有する技術や顧客基盤等、双方の経営資源を有効に活用することで、より幅広い産業領域に向けて製品やサービスを展開し、当社グループの更なる成長を実現してまいります。



電子機器用金属接点パネ (ドームコンタクト)



車載用エレクトロニクス部品 (高圧センサー用部品)

### 不二電子工業株式会社



電子部品向けの精密プレス成形を主力事業に、昭和38年の創業以来50年間にわたり、自動車や携帯電話、AV機器等の主要部品を供給。スマートフォンやリモコンのボタンに使用される金属接点パネ（ドームコンタクト）においては世界でもトップクラスのシェアを誇ります。また、現在急増中のハイブリッドカーを含め、各種の自動車に用いられるセンサー部品を多数供給しています。